

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

市民及び市内事業所のごみ減量・リサイクルに向けた取り組み状況や各施策の認知度等について調査を行い、現状やニーズ、行政への要望等を把握するとともに、一般廃棄物処理基本計画の評価・検証及び、次期計画に係る施策等に反映させるために実施。

### (2) 調査対象 ・ 実施時期

#### ■ 調査対象者

市内に在住する満 18 歳以上の市民（住民基本台帳より無作為抽出）及び市内事業所（無作為抽出）を対象とし、郵送による調査と Web による調査（調査案内文に貼付した二次元バーコードを読み取り、Web 上で回答いただく方法）を併用。

#### ■ 実施時期

- ・ 調査開始日：令和 7 年 5 月 29 日（木）発送
- ・ 回答締切日：令和 7 年 6 月 20 日（金）

※令和 7 年 6 月 30 日までの回答について集計を実施。

### (3) 回答率

対象者	送付件数(件) (無作為抽出)	回答件数(件) (うち Web 回答)	回答率(%)
18 歳以上の市民	1,500	676 (101)	<b>45.1</b>
市内事業所	500	287 (54)	<b>57.4</b>
合 計	2,000	963 (155)	<b>48.2</b>

市民は 45.1%、事業所は 57.4%という回答率が得られた。

## 2. 調査内容

### ■ 市民アンケート

問	質問の内容	質問の意図	今後の周知に活用	施策へ反映
1	①性別、②年齢、③居住地域、④世帯構成 ⑤世帯人数、⑥居住形態、⑦居住年数、 ⑧町内会への加入状況	属性の把握		
2	ごみ問題への関心があるか	関心の把握	○	○
3	日常生活でごみ減量に取り組んでいるか	意識の把握		○
4	実践しているごみ減量のための取組	・具体的な取組の把握 ・取り組んでいる割合が低い項目の把握	○	○

問	質問の内容	質問の意図	今後の周知に活用	施策へ反映
5	食品ロス削減の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組の把握</li> <li>・取り組んでいる割合が低い項目の把握</li> <li>・食品ロス発生理由の把握</li> </ul>	○	○
6	食べ物を捨ててしまう理由			
7	外食などで食べ物を残してしまう理由			
8	生ごみの水切りのための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組の把握</li> <li>・取り組んでいる割合が低い項目の把握</li> </ul>	○	○
9	市のごみの減量・リサイクルが思うように進まない理由	ごみ減量に対する考えや障壁になっていることを把握	○	○
10	市に求める取組	市に望む施策の把握		○
11	①分別方法の理解度 ②収集回数の評価 ③分別方法の不明点や意見	分別や収集体制についての考えの把握 ⇒収集体制の検討に活用	○	
12	1 か月あたりの排出袋数 (各種別)	各袋の使用状況の把握 ⇒今後の有料化の試算などに活用		○
13	①プラスチック容器の排出方法 ②もやすごみで捨ててしまう理由	プラスチックごみの捨て方の把握	○	○
14	ごみステーションの決まりが守られているか	ごみステーションの使用状況の把握	○	○
15	ごみステーションの使用状況			
16	①古紙類の排出方法 ②もやすごみで捨ててしまう理由	古紙類の捨て方の把握	○	○
17	クリーン作戦への参加状況	クリーン作戦への参加状況の把握 ⇒目標値への反映	○	○
18	災害時のごみ等に関する不安	災害時に不安に感じていることの把握 ⇒災害対応に活用	○	
19	ごみの減量・分別・リサイクルに関する知識や情報の入手方法	情報入手手段の把握 ⇒今後力を入れていく情報発信手段の検討に活用	○	
20	ごみの減量・分別・リサイクルに関する知りたい情報	求められている情報の把握	○	○
21 ・ 22	ごみに関する言葉を知っているか (SDGs、3R、食品ロス、30.10 運動、フードドライブ、環境保全推進員、ごみ発電、ペットボトルの水平リサイクル、海洋プラスチック問題、マイクロプラスチック問題)	各種用語の認知度の把握	○	
23 ・ 24	ごみに関する市の取組を知っているか (ごみの分け方・出し方ガイドブックの作成・配布、市公式 LINE のごみ分別検索機能、ごみ焼却施設での資源物の無料回収、集団資源回収運動への報奨金交付、ごみ焼却施設やリサイクルプラザの見学、ごみ分別出前講座)	市の取組の認知度の把握 ⇒各取組の見直しに活用	○	○
25	市のごみ処理全般について意見や要望	自由記述	○	○

## ■ 事業所アンケート

問	質問の内容	質問の意図	今後の周知に活用	施策へ反映
1	①業種、②従業員数、③事業年数、 ④所在地域、⑤住まいの併設、 ⑥営業年数	属性の把握		
2	年間のごみの排出量を把握しているか	事業者の意識の把握	○	○
3	1 か月のごみ排出量	排出量、処理費用の把握 ⇒ごみ処理手数料の適正化にも活用		○
4	1 か月分のごみの処理費用			
5	事業所から発生するごみで最も多いもの	事業系ごみで最も多いごみの把握	○	
6	ごみの減量やリサイクルへの取り組み状況	事業者の意識の把握		○
7	ごみの減量や資源化に取り組む理由	事業者の動機の把握		○
8	実践しているごみ減量のための取組み	・事業者の具体的な取組の把握 ・取り組んでいる割合が低い項目の把握	○	○
9	実践している古紙類の減量・資源化のための取組	・事業者の具体的な取組の把握 ・取り組んでいる割合が低い項目の把握	○	○
10	実践している食品ロスの削減のための取組	・事業者の具体的な取組の把握 ・取り組んでいる割合が低い項目の把握	○	○
11	ごみ減量や資源化を進めていくうえで主な問題点	事業者の考えの把握	○	○
12	今後 10 年間でごみの量をどの程度まで減らすことが可能か	減量見込みの把握 ⇒目標値への反映		○
13	市に求める取組（自由記述）	事業者の望む施策の把握	○	○
14	事業系一般廃棄物と産業廃棄物の区別を知っているか	事業者の法律の理解度の把握	○	
15	ごみステーションに出してはいけないことを知っているか	事業者の分別ルール理解度の把握	○	
16	事業系一般廃棄物の処理方法	事業者の処理方法の把握	○	
17	ごみ焼却施設の料金(120 円/10kg)についてどう思うか	・現行手数料の評価の把握 ・手数料引き上げへの考え方の把握 ⇒ごみ処理手数料の適正化にも活用	○	○
18	ごみ焼却施設の料金の引き上げについてどう思うか			
19	ごみの減量・分別・リサイクルに関する知識や情報の入手方法	・情報入手手段の把握 ⇒今後力を入れていく情報発信手段の検討に活用	○	
20	もっと知りたい情報	求められている情報の把握	○	○
21	わからないことや感じていること	自由記述	○	○
22	市のごみ処理全般について意見や要望			

### 3. 調査結果



#### 市民アンケート

##### 1. 属性(抜粋)

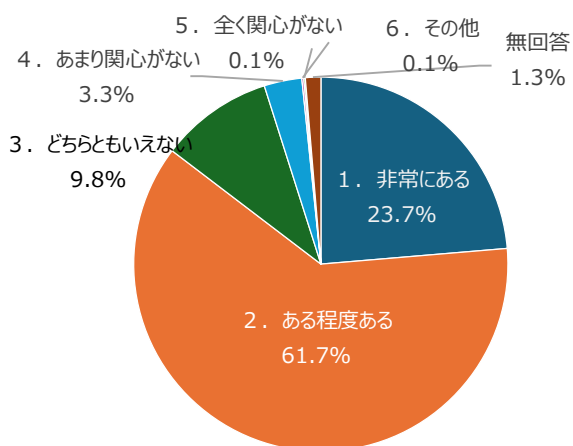
◆女性の割合が約 50%で、年代別では 60 代～70 代の回答者が多かった。

性別		
選択肢	回答数	割合
1.男	227	33.6%
2.女	334	49.4%
3.その他	0	0.0%
無回答	115	17.0%

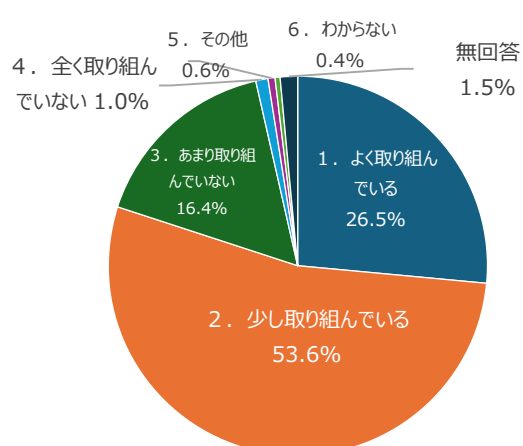
年齢層					
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
1.10 代	4	0.6%	5.50 代	98	14.5%
2.20 代	13	1.9%	6.60 代	164	24.3%
3.30 代	43	6.4%	7.70 代以上	257	38.0%
4.40 代	83	12.3%	無回答	14	2.1%

##### 2. ごみ分別・リサイクルに関する設問への回答（抜粋）

問 2 ごみに関する問題への関心がありますか

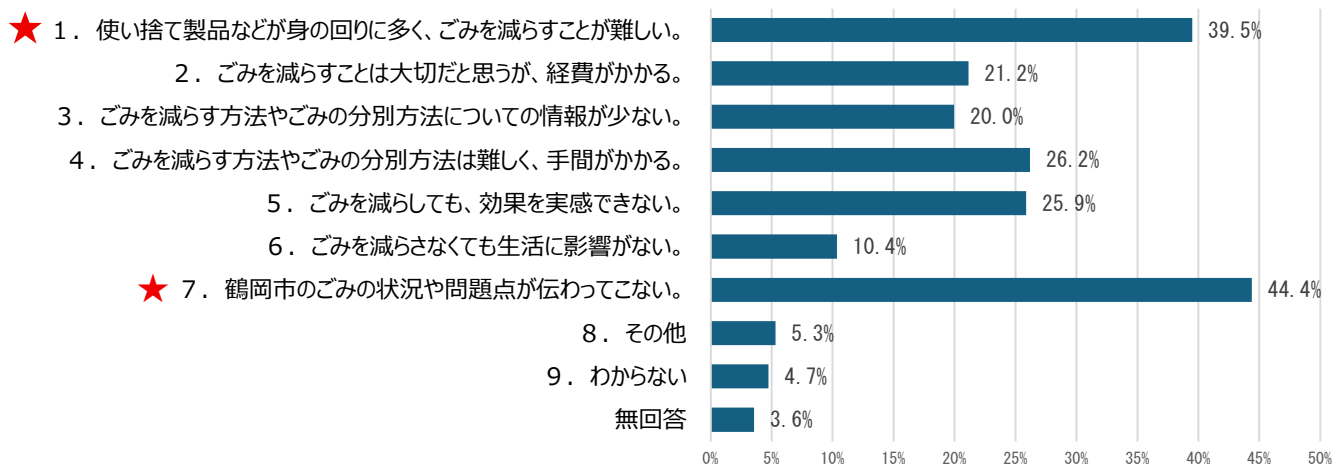


問 3 日常生活でごみを減らすよう取り組んでいますか

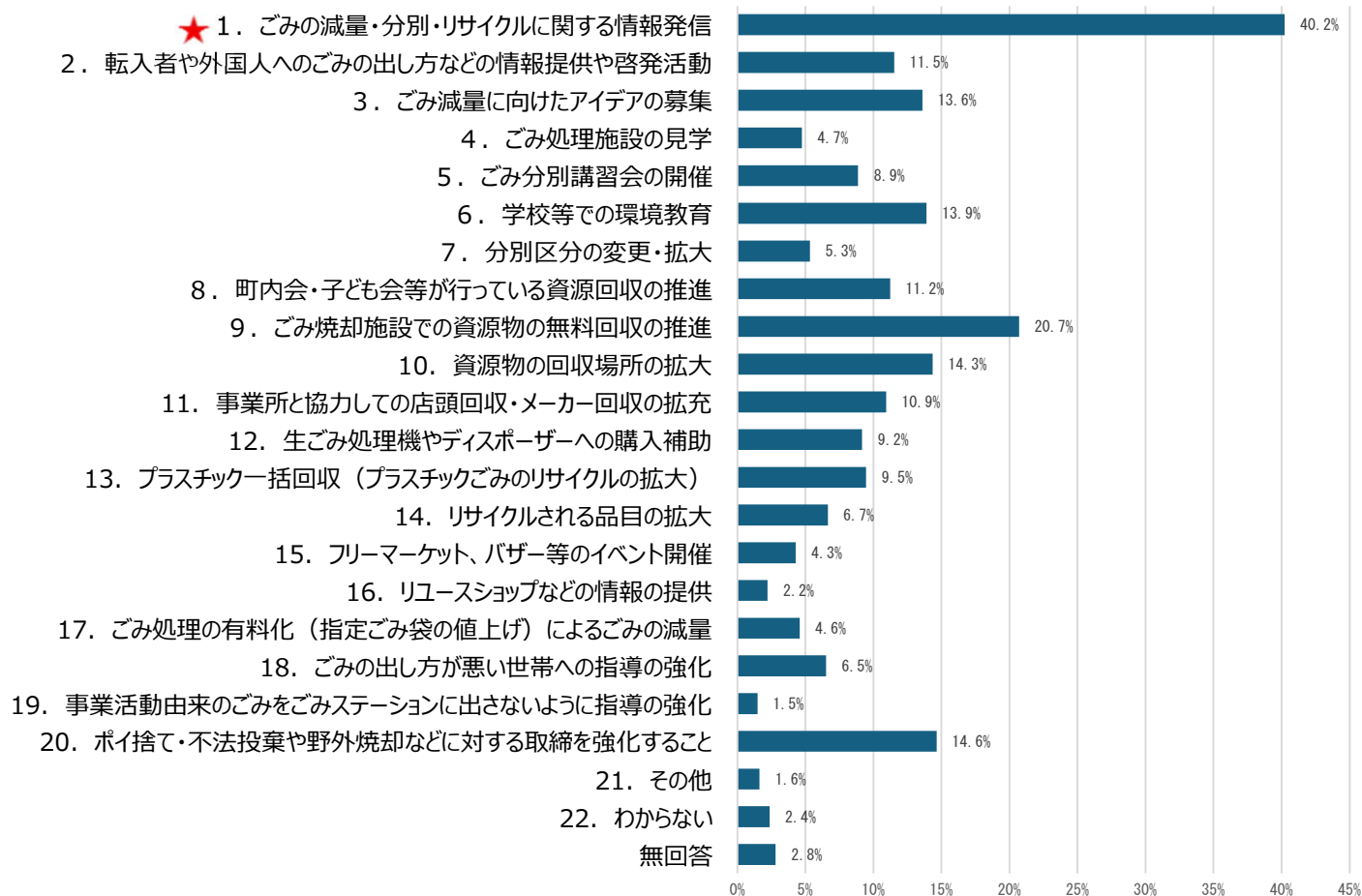


◆問 2.3 では回答者の 70%以上がごみ問題への関心を持ち、日常生活でごみ減量へ取り組んでいる結果となった。

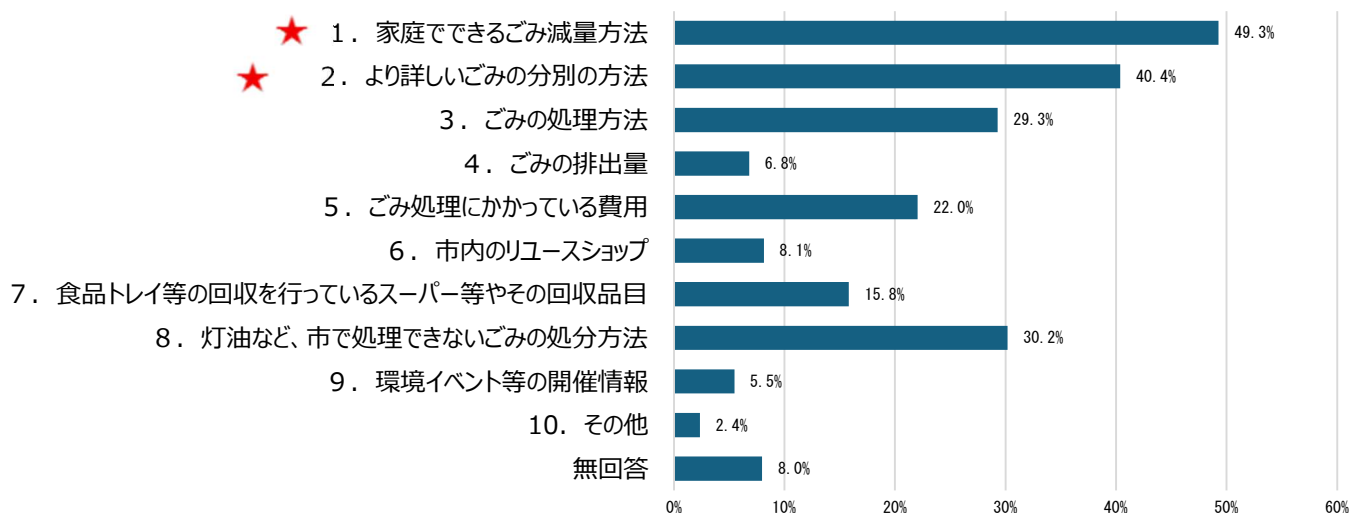
問 9 現在、鶴岡市の「1 人 1 日あたりの家庭ごみの排出量」は全国平均よりも高い水準が続いています  
鶴岡市のごみの減量・リサイクルが思うように進まない理由について、どのように思いますか



問 10 ごみの減量のため、市はどのような取り組みを重点的に進めていくのが望ましいと思いますか



問 20 ごみの減量・分別・リサイクルについて、もっと知りたい情報はどのようなものですか（3つ選択）



- ◆ 問 9 では回答者の約 45%が「ごみの状況や問題点が伝わってこない」と回答。続いて約 40%が「使い捨て製品などが身の回りに多く、ごみを減らすことが難しい」と回答。
- ◆ 問 10 では回答者の約 40%が「情報発信」が重要と回答。
- ◆ 問 20 では回答者の約 50%が「家庭でできるごみ減量方法」を知りたいと回答。続いて約 40%が「より詳しいごみの分別方法」を知りたいと回答。イラストや写真、動画など視覚に訴え、市民の行動変容につながる効果的な情報発信が今後の課題。



## 事業所アンケート

### 1. 属性（抜粋） 回答者の業種（選択肢から1つを回答）

◆回答者の業種で割合が高かったのが、建設業が約24%で、続いて製造業が約18%となった。

選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
1. 農林水産業	10	3.6%	9. 不動産業	5	1.8%
2. 建設業	66	23.5%	10. 飲食店・宿泊業	14	5.0%
3. 製造業	50	17.8%	11. 医療・福祉	22	7.8%
4. 電気・ガス・熱供給・水道業	8	2.8%	12. 教育・学習支援業	3	1.1%
5. 情報通信業	2	0.7%	13. サービス業	32	11.4%
6. 運輸業	5	1.8%	14. その他	16	5.7%
7. 卸売・小売業	42	14.9%	無回答	1	0.4%
8. 金融・保険業	5	1.8%	※複数回答	6	2.1%

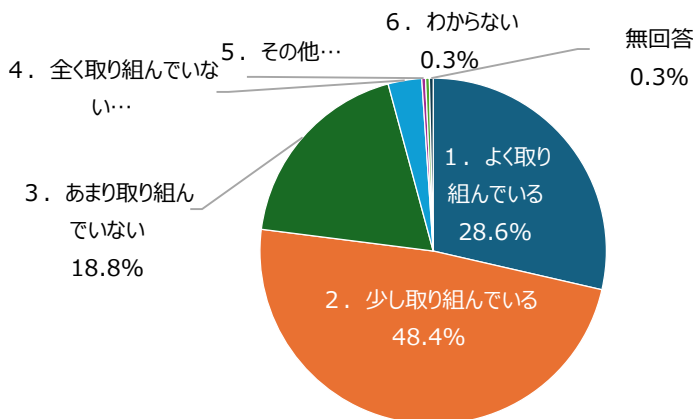
### 2. ごみ分別・リサイクルに関する設問への回答（抜粋）

#### 問5 事業所から発生するごみで最も多いものは何ですか

◆問5では、事業所から発生する最も多いごみは「紙ごみ」が約50%、続いて「プラスチックごみ」が約15%であった。

選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
1. 紙ごみ	138	49.8%	5. プラスチックごみ	41	14.8%	9. わからない	5	1.8%
2. 剪定枝・草	6	2.2%	6. 金属ごみ	21	7.6%	無回答	6	2.2%
3. 生ごみ	26	9.4%	7. ガラスごみ	1	0.4%			
4. 粗大ごみ	7	2.5%	8. その他	26	9.4%			

#### 問6 日頃からごみの減量やリサイクルに取り組んでいますか

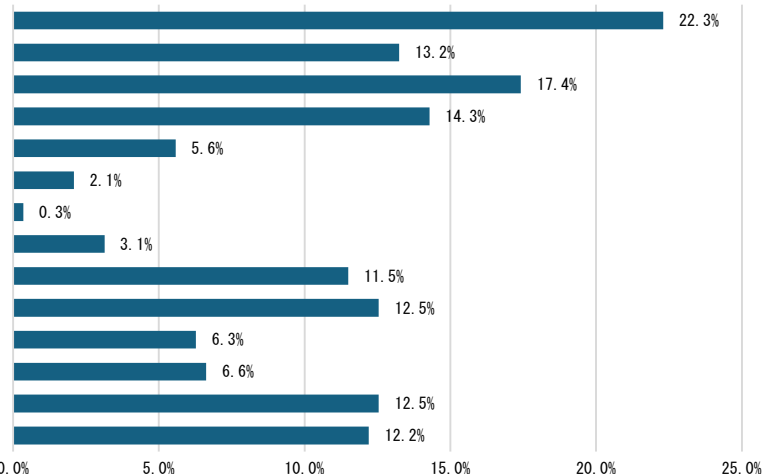


◆問6では、回答者の約29%が「よく取り組んでいる」、約48%が「少し取り組んでいる」と回答。約77%の事業所でごみの減量やリサイクルに取り組んでいることがわかった。

◆問11では、回答者の約22%が「ごみを減らすことは大切だと思うが、経費がかかる」と回答。続いて約17%が「ごみを減らす方法やごみの分別方法は難しく、手間がかかる」と回答。ごみ減量のための費用と、ごみ分別の手間について選択した事業所が多かった。

#### 問11 ごみ減量や資源化を進めていくうえで主な問題点は何ですか

- ★ 1. ごみを減らすことは大切だと思うが、経費がかかる。
- 2. ごみを減らす方法やごみの分別方法についての情報が少ない。
- ★ 3. ごみを減らす方法やごみの分別方法は難しく、手間がかかる。
- 4. ごみを減らしても、効果を実感できない。
- 5. ごみを減らさなくても事業活動に影響がない。
- 6. 建物の広さや構造等の物理的制約があり、分別して置く場所がない
- 7. 本社（本店）の指示に従うしかない
- 8. ごみ処理や資源化について質問や相談する窓口が分からない
- 9. 従業員にごみの減量や資源化の意識を浸透させることが難しい
- 10. 企業秘密や事業形態の関係上、ごみの減量や資源化が難しい
- 11. ごみの状況や問題点が伝わってこない。
- 12. その他
- 13. わからない
- 無回答



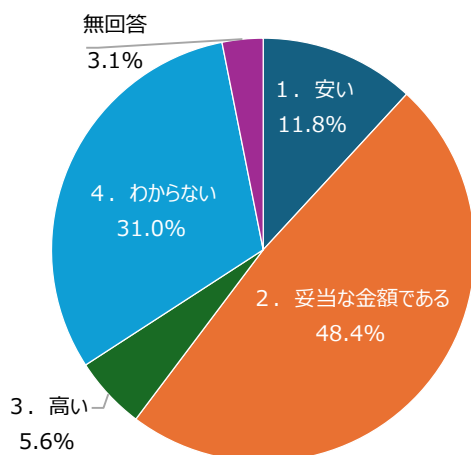


問 12 今後 10 年間でごみの量をどの程度まで減らすことが可能だと考えますか

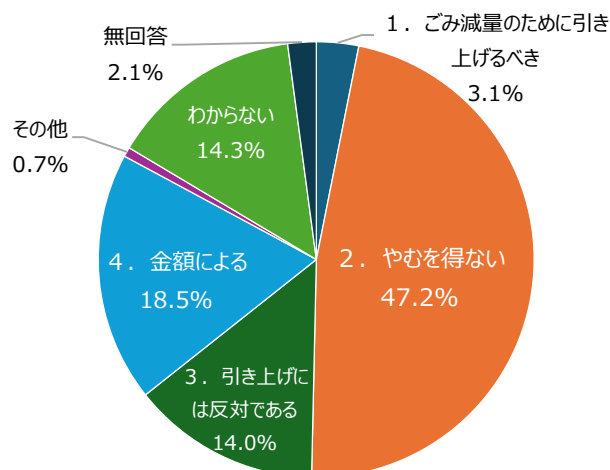
選択肢	回答数	割合	選択肢	回答数	割合
1. 20%以上減らせる	5	1.7%	6. ほとんど減らせない	47	16.4%
2. 10～20%程度減らせる	22	7.7%	7. 今よりも増える	4	1.4%
3. 5～10%程度減らせる	30	10.5%	8. その他	5	1.7%
4. 1～5%程度減らせる	27	9.4%	9. わからない	59	20.6%
5. 若干は減らせる	79	27.5%			

◆問 12 では、回答者の約 28%が「若干は減らせる」と回答。続いて約 21%が「わからない」と回答。事業形態や取引先のニーズなどが関係する事業者も多数あり、大幅な減量は難しいと推測されるが、日常業務のペーパーレス化や簡易包装の推進、生ごみや食品ロス削減などさらなる意識向上のため、情報発信に力を入れることにより減量につなげていきたい。

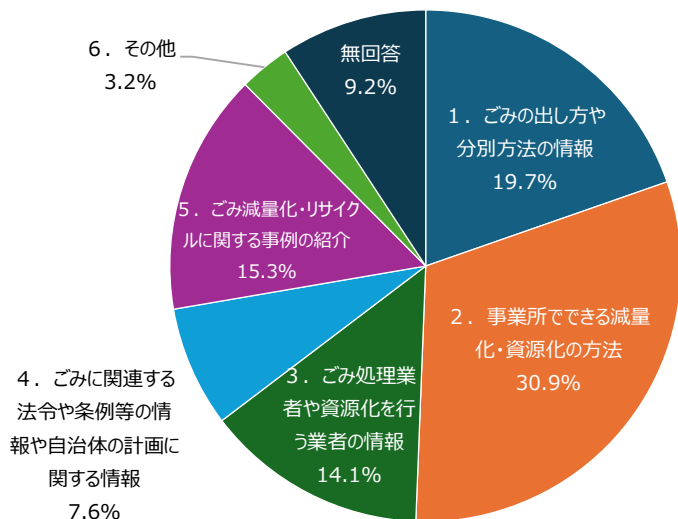
問 17 「つるおかエコファイア」では、事業系一般廃棄物を 10 kgにつき 120 円で受入れ処理しています。この料金について、どのように思われますか。



問 18 今後、ごみ処理手数料を引き上げた場合、どのように思われますか。



問 20 ごみの減量・分別・リサイクルについて、もっと知りたい情報はどのようなものですか。



◆問 17 では、回答者の約 60%が「安い」及び「妥当な金額である」と回答。

◆問 18 では、回答者の約 3%が「引き上げるべき」47%が「やむを得ない」と回答。約半数の事業所から、現行のごみ処理手数料の金額及び今後の引き上げについて、概ね理解が得られていた。

◆問 20 では、回答者の約 31%が「事業所でできる減量化・資源化の方法」を知りたいと回答。続いて、約 20%が「ごみの出し方や分別方法の情報」と回答。家庭ごみだけでなく、事業系ごみの分別・減量に係る積極的な情報発信にも力を入れる必要がある。